

明治大学国際交流基金事業外国人学識者招聘短期プログラム実施報告書

明治大学商学部 特任准教授 敦賀公子

招聘者氏名 アナ・イネス・コウチョンナル博士 (Dra. Ana Inés Couchonnal)
所属機関 アルゼンチン科学技術研究委員会・アルゼンチン国立ラプラタ大学 (CONICET-HITePAC- Universidad Nacional de La Plata)
招聘期間 2018年4月1日～2018年4月30日

アナ・イネス・コウチョンナル博士は南米パラグアイに生まれ、グアラニ語（先住民語）とスペイン語の二言語を公用語とする同国の社会言語状況に関して長年にわたり社会学・歴史学的研究に従事している。今回、多言語社会研究、中南米地域研究、中南米史研究などに従事する明治大学および首都圏の研究者らとの学術交流、さらには本学学生との交流のため、2018年4月1日から30日までの日程でコウチョンナル博士を招聘した。滞在期間中、以下の研究報告および特別講義が実施された

1. 研究報告：“La construcción de la identidad nacional paraguaya: historia, política y lengua en el Paraguay”（「パラグアイのナショナル・アイデンティティーの形成：歴史・政治・言語からの分析」）（スペイン語 通訳なし）

日時 4月21日（土）14:00-17:00
場所 和泉キャンパス メディア棟 401 教室
参加者数 28名

パラグアイの先住民グアラニは、現在総人口の10パーセント未満であるにもかかわらず、その言語は90パーセント以上の国民によって日常語として使用され、スペイン語と共に同国の公用語とされている。またグアラニ語は、パラグアイのナショナル・アイデンティティーの核ともなっている。本研究報告では、その主な要因について、地政学、植民地統治、独立後のいわゆる「孤立主義」（1816-1840）、パラグアイ戦争（1864-1870）や20世紀の軍事独裁政権（1954-1989）の具体的な史実から分析した。パラグアイは辺境の内陸国であるがゆえに、近隣の大国からの干渉という脅威を受けながらも、独自の社会・文化を育んできた。その結果、世界的に比類のない二言語社会というナショナル・アイデンティティーが形成されたとの分析は極めて興味深いものであった。出席者らと活発な質疑応答がおこなわれ、有意義な研究会となった。

(本研究会はイベリア・ラテンアメリカ文化研究会¹ (SECILA) との共催)

2. 特別講義：“Paraguay- a Terra incognita in the Southern Cone” (「パラグアイ：南米の知られざる大地」) (英語 通訳なし)

日時 4月23日(月) 13:30-15:10

場所 和泉キャンパス メディア棟 305 教室

参加者数 137名

武田和久専任講師(政治経済学部)が担当する講義科目「国際地域研究基礎論」の一環として、学部1・2年生を対象とした特別講義を開催した。南米南東部ラプラタ地域の地政学および歴史学的な特異性、またパラグアイの国家形成の歴史および現代の同国の社会・文化を概観した。本講義には学生のみならず本学教員や外部の研究者らも出席し、活発な質疑応答がおこなわれた。

3. 特別講義：“Paraguay and the Triple Alliance War” (「パラグアイと三国同盟戦争(1864-1870年)」) (英語 通訳なし)

日時 4月26日(木) 15:20-17:00

場所 和泉キャンパス 第一校舎 204 教室

参加者数 35名

招聘者敦賀が担当する商学部の授業科目「特別テーマ研究科目：ラテンアメリカ地域概論」の授業時間の中で、学部1・2年生対象に特別講義を開催した。南米史上、重要な転換期となったアルゼンチン、ブラジル、ウルグアイの三国同盟軍とパラグアイ軍が衝突した三国同盟戦争(1864-1870年)に焦点をあて、ラプラタ地域の再編成およびパラグアイの近代国家形成の経緯が解説され、さらに現代パラグアイの諸相から同戦争の影響が分析された。本講義には学生のみならず本学教員や外部の研究者らも出席し、活発な質疑応答がおこなわれた。

コウチョンナル博士は、上記の研究発表および特別講義を通じて、本学教員のみならず学外の研究者らとも活発に学術交流を行った。また本学学生には南米南東部の歴史的諸相に直接接触する貴重な機会を提供した。同博士の招聘に際し、本学国際連携機構および学校法人明治大学国際交流基金関係者の方々に御礼申し上げます。

¹ <http://secila.seesaa.net/>